

相談所長、福島県市町村教育委員会連絡協議会代表、
県警生活安全部少年課主任・少年警察補導員、福島
県保健福祉部児童家庭課長、福島県生活環境部青少
年女性課長、福島県教育庁スポーツ健康課長、福島
県教育庁生涯学習課長、福島県教育庁養護教育課長、
福島県教育庁高等学校教育課長、福島県教育庁義務
教育課長、各教育事務所生徒指導担当指導主事、県
教委委嘱生徒指導担当教員代表、福島県公立幼稚
園長会代表

県教育庁義務教育課指導主事 計64名

④ 新任生徒指導担当教員研修会

○期日 平成12年5月10日(水)～5月11日(木)〔1班〕
平成12年5月11日(木)～5月12日(金)〔2班〕

○会場 福島県教育センター

○参加者 計213名

⑤ 生徒指導総合研修講座

○期日 平成12年7月24日(月)～8月11日(金)

○会場 国立教育会館学校教育研修所

○参加者 郡山市立赤津小学校教諭 太田幸一郎
西郷村立西郷第一中学校教諭 鈴木 浩
県立小野高等学校教諭 伊藤 勝宏

⑥ スクールカウンセラー活用調査研究連絡協議会

○期日 平成12年8月25日(金)

○会場 国立オリンピック記念青少年総合センター

○参加者 西郷村立西郷第一中学校スクールカウンセラー
成井 香苗
西郷村立西郷第一中学校教頭 小林 茂
福島市立福島第四中学校教頭 斎藤 金夫
須賀川市立第三中学校スクールカウンセラー
伊藤美喜子
教育庁義務教育課指導主事 杉浦 伸吉

(2) 進路指導

① 進路指導に関する研修会

ア 文部省主催

・研修会名 平成12年度進路指導講座(中央講座)
・期日 平成12年6月19日(月)～6月23日(金)
・会場 筑波大学
・参加者 福島市立清水中学校教諭 佐藤 了弐
小高町立小高中学校教諭 志賀嘉津美
いわき市立平第二中学校教諭
菅波惣一郎

7 幼稚園教育

本年度公立幼稚園数は分園2園を含み、239園であった。
学級数は4学級減少して幼児数の減少から少人数保育になっ
ているところも多い。県全体の平均学級園児数は、21.0人だ
る。5歳児の就園率は、73.7%で(全国平均61.1%)東北
第2位、全国でも5位となっている。幼稚園未設置市町村の
解消や就園率の地域間格差是正、第3次幼稚園教育振興計画
の策定に伴う3年保育、その他混合保育、預かり保育など課
題も多い。

兼任園長等を対象とした「園長等運営管理協議会」をはじ
めとして幼稚園主任等運営協議会、保育技術協議会、実技講

習会、新規採用教員研修会など経験や職能に応じた研修によ
り教員の資質の向上を図った。

さらに、幼稚園教育の一層の充実を図るため、市町村教育
委員会、福島県公立幼稚園教育研究会並びに福島県全私立幼
稚園協会等の協力を得て、次の事業を実施した。

(1) 幼稚園教育課程理解推進事業都道府県協議会

① 主催

福島県教育委員会、福島県公立幼稚園教育研究会

② 期日

平成12年10月4日～10月25日のうち1日

③ 会場(県内6ブロック)

県北、県中、県南、会津(南会津)、相双、いわき

④ 研修主題

幼稚園において、幼児の主体的な活動が確保されるよ
う幼児一人一人の行動の理解と予想に基づき、計画的に
環境を構成するためには、どのような工夫が必要か。

分科会協議主題

I 進んで戸外に出掛け、様々な遊びを楽しむよう
になるためには、環境をどのように構成すればよ
いか。

II 友達よさに気付き、一緒に活動する楽しさを
味わうようになるためには、環境をどのように構
成すればよいか。

III 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不
思議さなどに気付き、好奇心や探求心をもつよう
になるためには、環境をどのように構成すればよ
いか。

IV 感じたことや考えたことなどを自分なりの言葉
で表現し、言葉で交わす喜びを味わうようになる
ためには、環境をどのように構成すればよいか。

⑤ 参加者数 1,165名(6地区合計)

(2) 幼稚園教育課程理解推進事業中央協議会

① 主催 文部省

② 期日 平成12年12月6日～7日

③ 会場 虎ノ門ホール

④ 本県からの参加者 10名

(3) 保育技術専門講座

① 主催 文部省、福島県教育委員会

② 期日 平成12年7月27日～28日

③ 会場 福島県教育センター

④ 受講者 33名

⑤ 内容 講義、研究協議、実技、演習

(4) 幼稚園実技講習会

① 主催 福島県教育委員会

② 期日 平成12年7月31日～8月3日

③ 会場 福島大学教育学部附属幼稚園

④ 受講者 25名

⑤ 内容 実技、演習

(5) 園長等運営管理協議会

① 主催 福島県教育委員会

② 期日 平成12年7月10日～12日